

● 草の根パートナー型

平成21年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	中華人民共和国
2. 事業名	寧夏地区飼料用桑栽培及び桑飼料化とそれによる羊（牛）の飼育法の普及
3. 事業の背景と必要性	<p>中国西北部に位置する寧夏地域は周辺の甘肅省、陝西省、内蒙古の主要都市から遠く離れ、従来から少数民族である回族の貧困地域であるが、近年の砂漠化の進展により、農業の生産性が落ち、その貧困に拍車がかかった。その中で家畜（羊）の放牧による草地破壊があり、このため、この地域における植林活動が強化され、家畜の放牧禁止と畜舎飼育が進められた。一方東部沿海地域の養蚕業を西北部への移転が推進され、こうして寧夏地域の中部から南部にかけて桑園が急速に発展し、その面積は3万ムー（2000ha）に達し、養蚕業の振興が図られた。しかし、最近に至って、養蚕業の方は繭の価額の低迷に続き、一時期の労働力の集中需要から、養蚕業の発展は頭打ちになり、多くの桑葉の余剰が生じている。</p> <p>こうした時期に国際善隣協会はJICA草の根技術協力事業（草の根協力支援型）にて、「寧夏紅寺堡資料用桑栽培モデル農場建設及び研修」を実施し、鮮葉レベルの最適配合比率の確定及び飼料として桑を与えることを対象地域の農民に導入させるという所期の成果を挙げた。その成果をもとに、余剰な桑を与えるにとどまらず、桑を種から育苗した上で植林することで生態建設に役立ち、寧夏中南部の農民に対し、安価かつ優れた濃厚飼料である桑の利用を奨励して、農民の現金支出の減少に貢献することが求められている。</p>
4. 事業の目的	桑による畜舎飼育が普及することによる対象農民の現金支出が軽減されること
5. 対象地域	寧夏回族自治区紅寺堡地区、固原（原州）区、ケイ源県
6. 受益者層	紅寺堡、ケイ源県、固原市の畜舎飼育する農民約15,000人
7. 活動及び期待される成果	<p>【畜舎飼育の理解と導入】</p> <p>1-1研修教材を作成する。1-2コアとなる農民に対し、桑の給餌方法に関する技術研修を行う。1-3コアとなる農民が中心となって、一般農民に対し、桑の給餌方法に関する技術研修を行う。1-4各地域に桑飼料調製ステーションを、銀川には桑飼料調製センターを建設する。1-5各ステーション及びセンターの桑飼料調製に関する運営計画を策定する。1-6桑飼料調製及び運営に関する技術指導を行う。</p> <p>【桑栽培の普及】</p> <p>2-1研修教材を作成する。2-2コアとなる農民に対する桑の植栽に関する技術研修を行う。2-3コアとなる農民が中心となって、一般農民に対し、桑の植栽に関する技術研修を行う。2-4銀川桑飼料調製センター内に育苗圃を建設する。2-5同センター育苗圃の運営計画を策定する。2-6圃場建設と運営に関する技術指導を行う。2-7桑栽培に関する訪日研修を行う</p> <p>【最適配合比率の検出】</p> <p>3-1最適配合比率を出すため、羊及び牛の飼育試験を行う。3-2飼育試験結果の分析を行う。3-3分析結果に基づく配合飼料の生産計画を策定する。3-4生産計画に基づく生産及び農民への配布を行う。</p>
8. 実施期間	2010年7月～2013年6月（3年）
9. 事業費	49,792千円
10. 事業の実施体制	<p>1. 日本側：（社）国際善隣協会、那須畜産試験場、筑波植物資源研究所。</p> <p>2. 中国側：寧夏回族自治区対外科学技術交流センター、同自治区科学技術庁、紅寺堡区、固原（原州）地区、ケイ源県。</p>
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	社団法人 国際善隣協会
2. 活動内容	1. 講演会などの開催 2. 日本語研修学校の経営 3. JICA青年研修事業による研修員受入 4. 小淵基金による北京における植林事業
3. 対象国との関係、協力実績	1. 重慶市に対する環境協力 2. 北京市に対するゴミ処理分野の協力 3. JICA青年招聘事業による中国からの研修員受入 4. 北京市に対する植林事業 5. 中国からの日本語研修生の受入